

卒業生調査の一例

村上 一

I 緒 言

A. 目 的

新制大学に於ける学生助言が充実されてゆく時、その方法なり、資料が適切確実でなければならぬ。学生の助言は一定形式の型にはまつたものでなく、臨機応変でなければならぬが、この為には確実な各種の基礎資料を豊富に準備しておく必要があると思われる。しかもその基礎資料は科学的で又普遍的でなければならぬ。

今回数多い調査の中より卒業生に対する調査を実施し、卒業後の実態を知ると共に卒業生自身の反省と批判とを聞き、学生助言の一助にすると共に、今後の学校教育の改善の参考に致したいとの目的を以てこの調査を行つた。

特に本学はその前身が4ヶ年制工業専門学校であつた点、学生数の少い点、職業分野の狭い点、卒業生団体の堅実な点に於いて利点があるので、調査を四年制専門学校卒業後40年以上の卒業生迄拡げる事が出来た。

初めての試みである為、不充分の点もあり、結果の検討についても断定の域に達して居らないので、ここには得た結果のみを統計的に発表した。大方の御指導と御注意を賜れば幸である。

B. 方 法

調査は昭和29年2月、別紙Aの様式により卒業生1,000名に対して実施した。

C. 担 当 者

問合せから集計迄村上補導課長を中心に学生部課員が担当し、学生部長吉田教授、心理学担当船津講師の参与を求めた。回答を寄せられた各位並に担当者援助者に厚く感謝する。

II 照会数と回答数

A. 回 答 率

卒業年次	昭和 28～26	〳 25～24	〳 23～19
卒業後歴年	3年未満	5年以内	10年以内
卒業時学校名 ①	九州工大 及 明治工専	明治工専	官立明治専門 及 明治工専
卒業生数	274	491	1,748
照会数 ②	130	190	280
回答数 ③	88	155	199
回答率	67.7	81.6	71.1

〳 18～14	〳 13～9	昭和 大正 8～13	大正 12～2	合 計
15年以内	20年以内	30年以内	31年以上	
官立明治専門	官立明治専門	官立明治専門	私立明治専門 及 官立明治専門	
976	414	765	587	5,255
130	140	60	70	1,000
104	114	29	61	750
80.0	81.5	48.3	87.1	75.0

[註] ① 明治40年私立明治専門学校創立、明治42年鉱山、冶金、機械、明治44年応用化学、電気工学設置以来現在迄専門5科を持續。其の間多少の分科あるも之は以上の5科に包含した。

猶創立以来4ヶ年制専門学校、昭和19年～26年迄は戦時体制として3ヶ年制、昭和24年以後新制大学として4ヶ年制。

② 照会数は卒業生分布と、生存数を考慮して決定したもの。

③ 卒業科別も同様にして分割す。
科別回答数は次の如し。

科別	鉱山	機械	電気	金属	工業化学	合 計
回答数	132	193	149	120	156	750

B. 考 察

以上の様に卒業生約5,000名中より1,000名に対し照会した結果750の回答を得た。全卒業生を対象とした調査で、75%の回答率を得た事は非常に成功であつたと思う。

III 従事職別

A. 卒業科と現在従事職別実数及比率

卒業科別	鉱山	機械	電気	金属	工業化学	合計
卒業科を専門とする職業	95	136	117	89	93	530人
卒業科を専門としない職業	23	48	30	29	40	170人
卒業科を専門とする比率	72	74	80	75	70	76%

卒業生の大部分は自分の卒業した科を専門とする職業に従事して居る。

B. 現在従業の職域比率

職域	官公職	教職	鉱業	工業	商業	無職	其他	計
鉱山	14.4	8.0	64.0	2.4	2.4	4.0	4.8	100
機械	4.2	6.3	5.3	74.2	3.2	2.1	4.7	100
電気	9.1	2.8	11.2	62.2	4.2	0.7	9.8	100
金属	3.9	6.2	21.7	61.2	3.1	0.8	3.1	100
工業化学	6.4	12.8	4.5	64.8	4.5	1.9	5.1	100
合計	7.6	7.2	21.3	53.0	3.5	1.9	5.5	100

其他には農林、水産、交通、其の他を含む。上記の如く大部分は鉱業、工業に従事して居る。

C. 職業地位別比率

地位別	法人役員又ハ顧問	会社員	自営	官公吏	教職	其の他
(1) 3年未満	0	85.0	0	6.9	4.6	3.5
(2) 5年以内	2.2	73.8	1.4	10.6	9.2	2.8
(3) 10年以内	2.7	69.8	3.3	10.5	12.1	1.6
(4) 15年以内	4.3	82.8	3.2	3.2	4.3	2.2
(5) 20年以内	2.8	90.8	1.8	1.8	2.8	0
(6) 30年以内	15.4	61.6	3.8	11.5	7.7	0
(7) 31年以上	38.7	40.9	15.9	0	4.5	0
計	5.3	75.5	3.1	7.0	7.3	1.8

IV 勤務地

A. 卒業当初の勤務地

勤務地	実数(人)	比率	勤務地	実数(人)	比率
九州	387	51.6	東北	14	1.9
関東	94	12.5	北海道	13	1.7
四国近畿	94	12.5	北・中支	3	0.4
中部	78	10.4	台湾	1	0.1
朝鮮	24	3.2	南方	1	0.1
満洲	16	2.2	未解答	9	1.2
	16	2.2	計	750	100

B. 全卒業生の現在分布状況

区域	実数(人)	比率(%)	区域	実数(人)	比率(%)
九州	2,736	56.2	北海道	71	1.5
関東	595	12.2	東北	53	1.1
四国近畿	521	10.7	海外	11	0.3
中国	459	9.4	不明	282	5.8
中部	136	2.8	計	4,864	100

[註] 昭和30年10月現在調べの同窓会(明専会)の調査による。九州はその内2,085名が福岡県である。

C. 現在の転勤回数 (数字は%)

卒業後 暦年	回数	0	1	2	3
(1) 3年未満		71.4	26.0	2.6	—
(2) 5年以内		62.5	25.2	7.2	2.9
(3) 10年以内		49.1	22.6	18.2	7.5
(4) 15年以内		30.0	22.0	20.0	12.0
(5) 20年以内		12.0	16.5	27.5	16.5
(6) 30年以内		10.7	14.3	14.3	17.8
(7) 31年以上		5.7	9.5	20.8	15.1
計		40.8	21.1	16.0	8.8

回数	4	5	6	7	8	9	10回以上
—	—	—	—	—	—	—	—
2.2	—	—	—	—	—	—	—
2.1	—	0.5	—	—	—	—	—
7.0	4.0	1.0	3.0	1.0	—	—	
10.1	8.3	5.5	0.9	0.9	1.8	—	
14.3	3.6	3.6	—	10.7	—	10.7	
13.2	15.1	3.8	1.8	1.8	—	13.2	
5.2	3.2	1.6	0.7	0.9	0.3	1.4	

[註] 転勤とは勤務場所の変更をいう。同一勤務で地域的の転勤も含む。3年未満の転勤には、卒業直後の集中実務教育後任地決定を含むかも知れない。

大体卒業後10年以内は余り転勤してない様である。卒業後15年以内~31年以上になると転勤回数が非常に多くなつて居る。特に卒業後31年以上の中には転勤18回と云う人もある。全般的にみると転勤0~2回位迄が大部分である。

V 転職回数と原因

A. 転職回数

(イ) 卒業後歴年別転職回数比率

回数	0	1	2	3	4
(1) 3年未満	42.3	14.1	1.2	—	—
(2) 5年以内	48.3	18.1	4.0	—	1.3
(3) 10年以内	35.6	21.1	12.9	7.2	1.5
(4) 15年以内	29.1	20.4	17.5	6.8	3.9
(5) 20年以内	29.4	18.4	17.4	4.6	1.8
(6) 30年以内	14.8	18.5	11.1	14.8	11.1
(7) 31年以上	16.7	14.8	14.8	9.3	11.1

5	6	7	8	9	10	11	12	未記入
—	—	—	—	—	—	—	—	42.4
—	—	—	—	—	—	—	—	28.3
—	—	—	—	—	—	—	0.5	21.2
2.9	—	—	—	—	—	—	—	19.4
—	—	—	—	—	—	0.9	0.9	26.6
—	—	—	—	—	—	—	3.7	29.7
5.6	3.7	3.7	—	—	—	1.9	—	18.4

[註] 転職とは一企業から他の企業勤務に職を転じたことを示す。

(ロ) 卒業科別転職比率

回数	0	1	2	3	4	5
鉦山	35.5	13.0	14.6	4.6	0.8	—
機械	28.0	25.7	9.7	5.7	3.4	0.5
電気	40.7	13.8	8.3	5.5	3.4	0.7
金属	29.1	21.0	11.8	2.7	3.6	2.7
工業化学	30.6	18.2	12.3	5.2	2.6	0.6
合計	32.6	18.6	11.2	4.9	2.9	0.8

6	7	8	9	10	11	12	未記入
—	—	—	—	—	0.8	1.5	29.2
—	0.5	—	—	—	—	—	26.5
1.4	—	—	—	—	—	—	26.2
—	0.9	—	—	—	—	—	28.2
—	—	—	—	—	0.6	0.6	29.3
0.3	0.3	—	—	—	0.3	0.4	27.7

転職状況を調査してみると、古い卒業生の中には転職回数が多い人もあるが、これは全体よりみれば極く少数で余りとりあげる程ではない。全体的には0~2回位迄で余り転職はない様である。ただこの調査では未記入が相当数あつた。

B. 転職の原因

(イ) 卒業後歴年別転職原因比率

卒業後歴年	原因は家庭的事情	家庭又は個人的事情	勤務先縮少又は解散	一般社情勢の影響	終戦事情	戦情	関連事業への転出
(1) 3年未満	61.0	16.7	16.7	—	—	—	5.6
(2) 5年以内	35.2	24.3	21.6	—	5.4	—	13.5
(3) 10年以内	36.0	19.0	19.0	0.9	21.5	—	3.6
(4) 15年以内	17.4	7.6	14.1	4.3	48.9	—	7.7
(5) 20年以内	24.0	8.0	16.0	—	32.0	—	20.0
(6) 30年以内	19.4	8.4	19.4	13.9	16.7	—	22.2
(7) 31年以上	21.5	10.8	16.9	7.7	18.5	—	24.6

(ロ) 卒業科別転職原因比率

科別	原因は家庭的事情	家庭又は個人的事情	勤務先縮少又は解散	一般社情勢の影響	終戦事情	戦情	関連事業への転出
鉦山	33.8	6.8	16.2	2.7	29.7	—	10.8
機械	30.7	11.8	20.5	3.9	23.6	—	9.5
電気	18.2	18.2	13.0	7.8	32.5	—	10.3
金属	17.4	11.6	20.2	—	31.9	—	18.9
工業化学	33.3	16.1	15.0	2.3	16.1	—	17.2
合計	27.4	12.9	17.3	3.5	26.0	—	12.9

転職の原因としては「家庭又は個人的事情」によるのが最も多く、次は「終戦事情」によるもので、終戦による影響は相当大きい事がうかがえる。次は「勤務先の縮少又は解散」による転職である。

VI 従事した勤務内容

A. 卒業後歴年別勤務内容比率

卒業後歴年	経営	販売	経理	製産及現場	設計及計画	政治
(1) 3年未満	—	4.2	1.1	65.2	28.4	1.1
(2) 5年以内	5.2	5.2	8.7	56.6	22.6	1.7
(3) 10年以内	5.5	4.3	1.9	55.5	29.7	3.1

(4)15年以内	4.4	6.9	3.8	56.0	28.3	0.6
(5)20年以内	8.1	4.3	1.1	54.6	31.4	0.5
(6)30年以内	23.2	5.4	1.8	42.8	25.0	1.8
(7)31年以上	24.0	4.0	—	52.0	18.0	2.0

B. 卒業科別勤務内容比率

科別	経営	販売	経理	製産及現場	設計及計画	政治
鉦山	7.7	3.3	2.2	57.5	26.5	2.8
機械	7.4	8.4	6.6	46.5	29.7	1.4
電気	7.8	3.7	0.9	48.4	39.2	—
金属	7.0	5.0	0.7	70.4	15.5	1.4
工業化学	10.1	2.5	2.0	63.7	18.7	3.0
合計	8.0	4.9	2.9	55.5	27.0	1.7

調査者の中約半数は「製産及現場」に勤務して居り、次は「設計及計画」で両者の合計は82.5%を示す。「経理」の5年以内及15年以内の特異数字は社会状況の影響も考えられ、経営の経歴年数と共に増大するのは当然と思える。科別では夫々の科の特色が現われている様である。

大部分の者が自分の技術をいかして勤務に従事して居り、工業大学としての性格を如実に示して居る。猶この調査の結果は、今迄従事した勤務内容及び現在従事中の勤務内容の両者の合計である。

VII 入学科選択に就いて

A. 卒業後の反省 (数字は%)

科別	反省満足	努力や訓練で満足する程になつた	満足さる程に思ふ	方針を誤つた	可否は分らぬ
鉦山	13.7	16.8	38.9	19.9	10.7
機械	33.9	8.5	46.0	2.6	9.0
電気	26.2	8.7	55.0	2.7	7.4
金属	25.8	16.7	42.5	7.5	7.5
工業化学	26.2	18.4	39.7	5.9	9.8
合計	25.8	13.3	44.8	7.2	8.9

上記の如く「方針を誤つた」と思われる者は極く少数である。ただ鉦山科のみが他の科に比して高率を示して居る。

B. 満足せず、或は方針を誤つた理由

(数字は%)

科別	理由	入学の際この意志より他の影響による	第一志望より他科に廻された	卒業後感じた	社会情勢の推移から感じた	一身上の関係から
鉦山		22.6	32.3	19.3	6.5	19.3
機械		26.0	4.4	47.8	4.4	17.4
電気		17.6	—	47.1	11.8	23.5
金属		25.0	12.5	37.5	9.4	15.6
工業化学		12.9	6.5	41.9	9.7	29.0
合計		21.2	16.4	33.9	7.9	20.6

「卒業後感じた」と云うのに次で、「入学の際他の影響による」が多いが結局は入学当初の決定が支配的の様に感じられる。

VIII 在学中履修学科目の活用度

A. 履修学科目中最も役立つもの

(i) 卒業後歴年別比率

卒業後歴年	数学	理学	専門学科中理論的なもの	専門学科中工学的なもの	社会	法律政治	語学	実験実習
(1)3年未満	15.8	14.9	21.9	21.1	2.6	—	8.8	14.9
(2)5年以内	22.1	16.9	19.5	16.0	1.7	—	9.1	14.7
(3)10年以内	17.0	19.1	19.1	23.3	2.1	0.4	8.8	10.2
(4)15年以内	11.6	22.1	17.4	18.6	0.6	—	14.0	15.7
(5)20年以内	17.9	17.9	16.4	24.1	2.1	0.5	10.8	10.3
(6)30年以内	19.6	21.8	8.7	28.3	4.3	—	13.0	4.3
(7)31年以上	13.8	21.8	16.1	21.8	2.3	—	11.5	12.7

本結果は、社会、政治等を除いて、学科目による差異があまり現われていない。換言して、職務内容により或は工学全般的に見て挙げられた何れの学科目に就いても、夫々の必要性が認められると解釈出来る。

(ii) 卒業科別比率

科別	数学	理学	専門学科中理論的なもの	専門学科中工学的なもの	社会	法律政治	語学	実験実習
鉦山	22.4	25.1	11.5	16.4	0.6	—	9.8	14.2
機械	22.5	13.8	19.3	26.2	3.3	0.4	6.9	7.6
電気	19.2	9.6	24.5	18.3	1.5	—	9.6	17.3
金属	10.4	21.3	19.3	23.8	1.0	—	12.3	11.9
工業化学	11.2	25.0	15.4	19.2	2.7	0.4	13.4	12.7
合計	17.1	18.7	18.1	21.1	2.0	0.2	10.4	12.4

上記の如く、合計数字では工学的のもの、理学、理論を主としたもの、数学等が優位にあるが、その差は微小であり、科別に見ると職業的活用度合の差が現われている、又工業大学としての性格がよく現われて居ると思う。然し次の調査で明らかなように、卒業後一番勉学を必要としたものは社会である。

B. 履修不足又は卒業後自分で勉学したもの

(イ) 卒業後歴年別比率

卒業後歴年	数学	理学	専門学 科中理 論を主	専門学 科中工 学的 のもの	社会	法律 政治	語学	実験 実習
(1) 3年未満	10.5	8.6	14.3	13.3	19.0	3.8	24.8	5.7
(2) 5年以内	13.7	5.8	5.2	11.1	19.5	3.2	34.2	7.3
(3) 10年以内	12.7	8.5	7.1	9.2	21.6	8.1	19.4	13.4
(4) 15年以内	8.2	7.1	6.1	16.4	40.8	7.1	9.2	5.1
(5) 20年以内	10.2	7.9	11.8	14.2	24.4	8.7	18.1	4.7
(6) 30年以内	3.0	6.0	—	18.2	45.6	15.2	6.0	6.0
(7) 31年以上	5.9	8.8	10.3	14.7	32.4	5.9	19.1	2.9

(ロ) 卒業科別比率

科別	数学	理学	専門学 科中理 論を主	専門学 科中工 学的 のもの	社会	法律 政治	語学	実験 実習
鉦 山	9.6	9.0	10.3	4.8	30.7	10.3	17.5	7.8
機 械	5.7	11.3	7.1	12.7	29.2	4.7	18.4	10.9
電 気	8.6	4.3	12.9	19.6	24.5	7.4	17.2	5.5
金 属	14.6	7.3	4.6	13.2	19.9	4.0	28.5	7.9
工業化学	16.5	5.7	6.1	11.3	20.3	7.1	25.5	7.5
合 計	10.9	7.6	8.1	12.3	25.0	6.6	21.4	8.1

履修不足又は卒業後自分で勉学したものの、卒業後歴年別に眺めると、「社会」が最も高率であり、特に「(4)15年以内」以上の者はその率が高い。最近の卒業生は一般教養でその方面の勉学をしている関係からか、或は歴年不足の為か約19%程度である。猶卒業後「(2)5年以内」の者では「語学」が相当高率（他の年度の卒業生に比して）を示して居るのはその必要性を痛感している時代であろうか。又「法律、政治」では「(6)30年以内」の者が最も高い。これは会社その他で、経営的な面に進出し、この方面の学科が必要と感じたものと思う。

次に合計欄から眺めると、「社会」「語学」が最も高率を示し、次いで「工学的」なものになつている。工業大学卒業生として、工学関係の学問が必要な事は申すまでもないが、社会人としては一般教養的な学問の必要性を感じた事を示して居る。ただ「語学」に就いては最近の卒業生が痛感している現われではなからうか。

IX 趣味涵養

A. 在学中の涵養

(イ) 卒業後歴年別比率

卒業後歴年	種別 学修のみ に専念せ よ	趣味涵養 も必要で ある	それは卒 業後でよ い	全く必要 がない
(1) 3年未満	3.3	76.7	20.0	—
(2) 5年以内	9.2	68.4	21.7	0.7
(3) 10年以内	6.4	69.8	23.3	0.5
(4) 15年以内	2.0	84.3	11.7	2.0
(5) 20年以内	11.9	66.7	20.6	0.8
(6) 30年以内	3.6	71.4	25.0	—
(7) 31年以上	6.6	52.5	39.3	1.6

[註] 本項以下の調査は個人性格差もあり、一般的に参考とする意味もあつて行つたものである。

(ロ) 卒業科別比率

卒業後歴年	種別 学修のみ に専念せ よ	趣味涵養 も必要で ある	それは卒 業後でよ い	全く必要 がない
鉦 山	8.5	73.8	16.2	1.5
機 械	3.6	68.7	26.7	1.0
電 気	13.2	63.5	23.3	—
金 属	6.7	65.8	25.8	1.7
工業化学	3.2	80.2	16.6	—
合 計	6.8	70.4	22.0	0.8

上記の如く「必要である」が約70%で大部分をしめて居る。猶「学修のみに専念せよ」と云うのが約7%あり、特に電気科卒業生では此の傾向が強い。

B. 趣味涵養で望ましいもの、望ましくないもの。

(イ) 卒業後歴年別比率

(分母…望ましくない、分子…望ましい)

No.	種類	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k
		文芸観賞	演芸映画観賞	講演評論聴取	社交機関参加	舞踊・ダンス習得	運動競技参加	運動競技観賞	碁・将棋麻雀トランプ	ピンゴパチンコ等	競馬・競輪・競艇	宝くじ類の購入
(1)	3年未満	100/0	98.0/2.0	100/0	66.7/33.3	62.5/37.5	87.1/12.9	97.1/2.9	89.7/10.3	0/100	3.4/96.6	8.5/91.5
(2)	5年以内	100/0	100/0	98.5/1.5	55.6/44.4	38.6/61.4	88.7/11.3	96.3/3.7	86.3/13.7	1.1/98.9	0.6/99.4	1.6/98.4
(3)	10年以内	100/0	100/0	100/0	66.7/33.3	45.1/54.9	93.1/6.9	98.5/1.5	87.1/12.9	1.7/98.3	3.6/96.4	2.2/97.8
(4)	15年以内	100/0	100/0	98.0/2.0	43.7/56.3	26.9/73.1	88.6/11.4	100/0	78.9/21.1	2.0/98.0	2.9/97.1	2.2/97.8
(5)	20年以内	100/0	95.4/4.6	98.2/1.8	44.0/56.0	33.3/66.7	97.7/2.3	100/0	91.7/8.3	0/100	0/100	0/100
(6)	30年以内	100/0	100/0	100/0	66.7/33.3	40.0/60.0	100/0	100/0	77.8/22.2	5.6/94.4	0/100	0/100
(7)	31年以上	100/0	100/0	100/0	82.6/17.4	30.8/69.2	84.6/15.4	96.1/3.9	82.8/17.2	0/100	0/100	0/100

(ロ)卒業科別比率

(分母…望ましくない、分子…望ましい)

No.	種類	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k
		文芸観賞	演芸映画観賞	講演評論聴取	社交機関参加	舞踊・ダンス習得	運動競技参加	運動競技観賞	碁・将棋麻雀トランプ	ピンゴパチンコ等	競馬・競輪・競艇	宝くじ類の購入
鉦	山	100/0	98.2/1.8	98.6/1.4	55.7/34.3	36.6/63.4	87.0/13.0	97.9/2.1	90.0/10.0	1.4/98.6	4.9/95.1	5.5/94.5
機	械	100/0	98.8/1.2	100/0	66.7/33.3	48.1/51.9	90.3/9.7	98.6/1.4	85.2/13.8	0/100	1.5/98.5	1.2/98.8
電	気	100/0	98.4/1.6	98.5/1.5	68.6/31.4	37.5/62.5	88.8/11.2	94.7/5.3	89.7/10.3	2.3/97.7	1.1/98.9	1.6/98.4
金	属	100/0	100/0	100/0	48.4/51.6	28.1/71.9	92.9/7.1	100/0	78.9/21.1	1.4/98.6	1.2/98.8	1.9/98.1
工	業化学	100/0	100/0	98.9/1.1	57.1/42.9	44.0/56.0	96.5/3.5	100/0	83.6/16.4	1.1/98.9	2.4/97.6	1.4/98.6
合	計	100/0	99.1/0.9	99.2/0.8	61.7/38.3	40.1/59.9	91.1/8.9	98.2/1.8	85.9/14.1	1.1/98.9	1.9/98.1	2.2/97.8

趣味涵養の項では、i, j, k は殆んど全部いつてよい位、「望ましくない」と云う回答であり、「eの舞踊、ダンス習得」に就いては時代相が稍現われている。其他のa, b, c, d, f, g, h では殆んどが「望ましい」と云う結果を示している。

工業系の多忙な学習に、実務に追われる為の要求か、体験による判定かは不明であるが「望ましい」と共にその時間を如何に生み出すかに関しては、本調査外であるが我々の研究問題であらう。

X 結 語

卒業生各位の御協力により、各種の貴重な資料を得る事が出来たので、今後これを充分活用してゆきたい。猶前述したごとく、初めての試みである為、不十分な点もあるので、今後更に研究を進めて初期の目的を達したいと考えている。

(別紙A)

お 尋 ね [註] 前文省略

◆注意 御回答は同封ハガキ相当欄に符号を以て御記入下さい

[問 I] 卒業後何年位経っておりますか○で包んで下さい

(1)3年未満 (2)5年以内 (3)10年以内 (4)15年以内 (5)20年以内 (6)30年以内 (7)31年以上

[問 II] 卒業の科別を○で包んで下さい

(A) 鉦山 (採炭を含む) (B) 機械 (製鉄を含む) (C) 電気 (通信を含む) (D) 冶金 (又は金属) (E) 工業化学 (化学工業火薬を含む)

[問 III] (1) 問IIの分野を卒業されて只今の心境は下記のどれと思われるか、その一つを○で包んで下さい

(a) 選択したことに全く満足している (b) 努力や経験で満足する様になった (c) 満足とも言えないが誤つたとも思わない (d) 方針を誤つた (e) 可否け分らない

(2) 前項の誤つたと思う方、或は他を選択すれば良かったと思う方は、その原因を次から選んで○で包んで下さい

- (イ) 入学の際自己の意思よりも他の影響が大きく科別を決定した (ロ) 本来第一の志望学科から他に廻された (ハ) 卒業後実社会に従事してから感じた (ニ) 日本の社会情勢の推移から感じた (ホ) 一身上の関係から感じた

[問Ⅲ] 今まで従事した職業を○で包み、現在の職業を◎で包んで下さい

専門別 (i) 卒業科別を専門とする職業 (ii) 卒業科別を専門としない職業

職別 (イ) 官公職 (ロ) 教職 (ハ) 鉱業 (ニ) 工業 (ホ) 農林水産業 (ヘ) 交通業 (ト) 商業 (チ) 無職 (リ) 其他

地位別 (a) 法人役員又は顧問 (b) 法人又は個人経営会社の社員 (c) 自営 (自己が設立した法人を含む) (d) 官公吏 (e) 国公立学校の教職 (f) 其他

[問Ⅴ] (甲) 卒業当初の勤務地 (都道府県名)

(乙) 現在迄の転勤回数

[問Ⅵ] 転職をした回数と転職の原因を○印で (同一理由の際は○を重ねて) お示し下さい

- (計 回) (A) 家庭又は個人的事情 (B) 執務又は勤務先方針と意見相違或は仕事の不適 (C) 勤務先縮少又は解散 (D) (C) 以外的一般社会情勢の影響 (E) 終職事情 (F) 関連事業への転出

[問Ⅶ] 今まで従事された勤務内容を○印で現在を◎印でお示し下さい

(イ) 経営 (ロ) 販売 (ハ) 経理 (ニ) 製産及現場 (ホ) 設計及計画 (ヘ) 政治

[問Ⅷ] (1) 卒業までに修学された次の分野で最も役立つものを○で包んで下さい

(2) 修学されなかつた為に不便を感じているもの或は卒業後自分で必要のため勉学されたものを○で包んで下さい

(分野) (a) 数学 (数学, 力学等) (b) 理学 (物理, 化学, 地学等) (c) 専門学科中理論を主としたもの (d) 専門学科中工学的なもの (製産, 加工等) (e) 社会 (経営, 経済, 社会等) (f) 法律及政治 (g) 語学 (英, 独, 仏等) (h) 実験, 実習見学等

[問Ⅸ] (A) 在学中修学以外に興味を持つこと或は趣味を涵養することは

(甲) 必要でしょうか (乙) 修業中は学修のみに専念した方が良いでしょうか (丙) 趣味涵養は必要であるが実社会に出た後で良いでしょうか (丁) 生活上全く必要がないのでしょうか

(B) 又趣味として次の中、望ましいものに○印望ましくないもの又は生活を乱す原因となりそうなものに×印を体験上お記し下さい

(a) 文芸鑑賞 (b) 演芸映画観賞 (c) 講演, 評論, 聴取 (d) 社交機関参加 (e) 舞踊, ダンス習得 (f) 運動競技参加 (g) 運動競技観賞 (h) 碁, 将棋, 麻雀, トランプ等娯楽 (i) ビンゴ, パチンコ等町の娯楽 (j) 競馬, 競輪, 競艇 (k) 宝くじ類似の購入